

平成23年度第1回標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会 SC 3/WG 4 特設会合
議事要旨

1. 日 時 平成23年10月11日(火) 14:00~16:30
2. 場 所 機械振興会館2階201-2協会A会議室
3. 出席者氏名 (委員) 宮崎 育夫、砂村 和弘(日立建機)、植田 洋一(コベルコ建機)、足立 識之(キャタピラー・ジャパン)、前田 憲男(住友建機)(事務局) 小倉 公彦、西脇 徹郎(協会) 計7名

4 議題及び審議内容

4.0 要旨 : 日本担当 (TC 127 対応国内委員会の SC 3 分科会宮崎委員長が国際 TC 127/SC 3/WG 4 コンビナー (主査) 兼 ISO 15818 プロジェクトリーダー PL の“つり上げ及び固縛箇所一性能要求事項”に関して、第2次最終国際規格案 FDIS に担当の日本も反対せざるを得なくなるなど難航し、4月の TC 127 ベルリン総会の際に、今後 WG 国際会議招集して段階を CD か DIS に戻し (ISO 中央事務局職権による自動キャンセルを避けるため委員会側からいったんキャンセル申請) 再検討とされているので、まず、日本の実情及び日本としての方針について再確認のため関係者による (SC 3 分科会主体も他の SC の委員で参画ご希望の方含む) 特設グループとして会合した。

4.1 吊り上げ及び固縛 (荷締め) に関する状況検討 :

- 1) **トレーラ側の状態** : 実態として、トレーラ側は 3 tonf フック、米国は 7 tonf 級の D リング、ドイツは ~10 tonf 級の D リング使用が実情とされ、国内実情からは、3 tonf 程度で可としないと不具合とされた。
- 2) **つり上げ及び固縛箇所の数** : 2 箇所を超える n としないと不具合と論議された。
- 3) **安全率** : 表 2 の Breaking force に対する固縛 (荷締め) 器具の Breaking force は (安全率 4 以上で) 安全率の点でバランスを欠くこととなると指摘された。

4.2 対応方針 : 上記に基づく検討の結論として、当面次の方針で国際 WG 会議に臨むこととした。

- 1) **改定案文の作成を優先しない** : 各国の [法令など含む] 実情に基づく対応が不透明であることから、各国意見を反映した案文の作成を優先しても、必ずしもまとまる方向になるとはいえず、優先作業とはしないとされた。
- 2) **データの収集** : むしろ各社、各国の実情に基づく、具体的な対応事例に関してデータの収集を急ぐべきとされた。
- 3) **安全率に関して** : 固縛 (荷締め) 側に関して、FDIS では安全率 2 とされているが、国内のワイヤロープ、チェーンの安全率は 4 又はそれ以上なのでむしろ

ろ Breaking force でバランスをとることにすれば良いのではとされた

以上

